

子どもたちを貧困に陥らせないために

スクールソーシャルワーカーを活用
大沢 豊 (緑たちかわ)



さまざまな困難を抱える世帯、生きづらさを抱える子どもの支援について、スクールソーシャルワーカーなどを導入していますが、現状と実績を伺います。子どもたちや、社会の中の若者の状況から見ると、貧困にあえぐ世帯が増えていると感じます。子どもたちを貧困に陥らせないためには、学習や人との信頼関係をきちんと養育していくことが必要です。そのためにも生活保護に限らない形で学習支援が大切だと考えますが、見解を伺います。

問

本市では、都のスクールソーシャルワーカー活用事業実施要領に基づきスクールソーシャルワーカーの活用を図っており、今年度は3名体制でさまざまなケースに対応しています。スクールソーシャルワーカーが関与するケースは増加傾向にあり、都教育委員会に事業の拡大を要望しています。子どもの学習支援については、生活保護受給世帯に対しては継続して行いますが、他市の状況を見ながら取り組み課題と考えています。

子どもが豊かに遊べる環境を

検討を進めたい

谷山 きょう子 (立川・生活者ネットワーク)



子どもの成長と発達には、自分のやりたいことに集中して遊ぶことが必要です。市内の公園ではボール遊びが禁止されており、小学校の校庭開放を積極的に行うべきと考えます。子どもの責任で自由に遊べる場であるプレーパークは、夢中になって遊ぶことで自己肯定感が得られ、解決する力を身につけられる場であり、立川にも必要です。また、都市軸でのイベントなどの際、遊戯道路としての道路開放に取り組んではいかがでしょうか。子ども自身がやりたいことに集中して遊ぶことは、成長と発達に重要であると考えています。校庭開放は、さまざまな課題があるため、校長会等とも相談し検討していきたい。プレーパークは夢育で、子ども21プランの取り組み項目になってはいますが、プレーリーダーの担い手が不足し開設できない状況です。今後、育成方法や場所の検討を進めたい。道路を遊び場として開放する試みは、先進事例などを参考に調査・研究したい。

問

子どもの成長と発達には、自分のやりたいことに集中して遊ぶことが必要です。市内の公園ではボール遊びが禁止されており、小学校の校庭開放を積極的に行うべきと考えます。子どもの責任で自由に遊べる場であるプレーパークは、夢中になって遊ぶことで自己肯定感が得られ、解決する力を身につけられる場であり、立川にも必要です。また、都市軸でのイベントなどの際、遊戯道路としての道路開放に取り組んではいかがでしょうか。子ども自身がやりたいことに集中して遊ぶことは、成長と発達に重要であると考えています。校庭開放は、さまざまな課題があるため、校長会等とも相談し検討していきたい。プレーパークは夢育で、子ども21プランの取り組み項目になってはいますが、プレーリーダーの担い手が不足し開設できない状況です。今後、育成方法や場所の検討を進めたい。道路を遊び場として開放する試みは、先進事例などを参考に調査・研究したい。

様々な場でご意見を伺っています

立川市議会は、議会基本条例第8条（市民との情報及び意見交換）に基づいて、様々な場でご意見を伺っています。今年度は、立川市議会の初めての試みとして、下記の方々からご意見を伺います。

- ・ 1月29日 立川市立小学校PTA連合会役員の方々
- ・ 1月31日 無作為抽出で対象となった市民の方々
- ・ 2月5日 立川市立中学校PTA連合会役員の方々
- ・ 2月8日 無作為抽出で対象となった市民の方々

※無作為抽出で対象となった市民の方々には、11月下旬にご案内をお送りしています。ご案内を受け取られた方は、ぜひご参加ください。

年をとっても住み慣れた地域で暮らすために

準備を着実に進めていきたい

稲橋 ゆみ子 (立川・生活者ネットワーク)



高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住まい、医療、介護、予防、福祉が連携した包括的ケアが必要です。在宅支援、療養をしっかりと支えるため、医療と介護の連携が行える担当部署の創設、組織変更を行い、また、地域福祉コーディネーターを全地域に配置するべきです。これから10年後に向けて、医師会や社会福祉協議会等との医療と介護の連携を進める具体的な取り組みについて伺います。

問

10年後、団塊世代の方々は今後高齢期を迎え、経験したことがない超高齢社会が到来します。地域でいつまでも暮らし続けることができるように、地域包括ケアシステムの構築や持続可能な介護保険制度の具体化に向けて取り組む必要があります。医療、介護の連携にとどまらず、他の地域資源や社会福祉法人など、さまざまな方向から組織や、内部の情報共有の仕組みなども考え、10年後に向けて今から準備を着実に進めていきたい。

行政視察報告

総務委員会 平成26年10月21日から10月23日

- 滋賀県長浜市 長浜市民自治基本条例について
地域の人々が築き上げてきた多様な地域資源を大切に、まちづくりの基本理念と目標を共有し、協働による公平・平等で格差のない開かれたまちづくりをすすめるために制定。
- 滋賀県彦根市 美しいひこね創造活動について
「美しいひこね」を創造することを目的に、1年間を通して彦根のまちを美しくする活動をした市民に対し、お礼として地域通貨を渡している。
- 愛知県蒲郡市 蒲郡市空き家等適正管理条例について
適正な管理が行われていない空き家等に対し、立入調査、助言及び指導、勧告、命令、代執行、緊急安全措置などを、この条例に基づいて行うことができる。



長浜市民自治基本条例について (長浜市)

厚生産業委員会 平成26年10月27日から10月29日

- 滋賀県湖南市 発達支援システムについて
支援の必要な人に対し、保健・福祉・医療・教育および就労の関係機関の横の連携による支援と、個別の指導計画による縦の連携による支援を提供している。
- 大阪府和泉市 市民を中心とした医療と介護の連携推進条例について
「市民が生涯にわたって住み慣れた場所で自分らしく安心して暮らすことができる安心・安全のまち和泉」を目指し、条例を制定。
- 大阪府堺市 被保護者キャリアサポートについて
社会情勢の変化により複雑な課題を抱えた生活保護受給者が増加し、これまで以上にきめ細やかな就労支援を行っている。就労困難層に対するより効果的な支援方法が課題。



発達支援システムについて (湖南市)

環境建設委員会 平成26年11月4日から11月5日

- 栃木県宇都宮市 「自転車を活用したまちづくり」について
誰もが安全で快適に楽しく自転車を使える「自転車のまち宇都宮」の実現に向けて、4つの施策の柱「安全」「快適」「楽しく」「健康とエコ」に基づき、自転車走行空間の整備、レンタサイクルの導入、自転車の駅の設定、自転車マップの作成など、様々な取組を推進している。
- 岩手県紫波町 「循環型まちづくり」について
「資源循環のまちづくり」、「環境創造のまちづくり」、「交流と協働のまちづくり」の4つの方針を掲げた「紫波町環境・循環基本計画」に基づき、百年後の未来を「環境」というキーワードで結びつけた「環境と福祉のまち」を目指して、まちづくりに取り組んでいる。



「循環型まちづくり」について (紫波町)

文教委員会 平成26年10月22日から10月23日

- 茨城県常総市 常総ほっとサタデー教室について
「学習習慣の定着」「基礎学力の向上」を目的とし、平成26年4月からスタート。子どもたちの学習環境の向上を狙っているが、そのためには家庭での過ごし方が重要であることから、親による送迎、勉強に関する相談、保護者面談など、親にも関心を持ってもらうよう働きかけている。
- 福島県 少人数学級について
小中学校9年間を通した少人数教育を実施することで、「一人一人に目が行き届く細かな指導」、「個に応じた指導による学力の向上」、「少人数を活かした望ましい集団づくり」を目指し、学校や市町村教育委員会の判断と主体性を尊重した地域主体のきめ細やかな教育を目指している。



少人数学級について (福島県)